海外派遣の概要

私は大学院の理工国際プログラムで夏休みの一ヶ月間，アメリカのオハイオ州のHonda Transmission Mfg, Inc. へ研修に行きました． このプログラムでは大学院生にが生きた英語を使えるように，また自分から情報を発信できるようにと考えられたプログラムで，日本での英語学習やプレゼンテーションの練習後，海外の大学の研究室や企業に派遣されると言うものです．

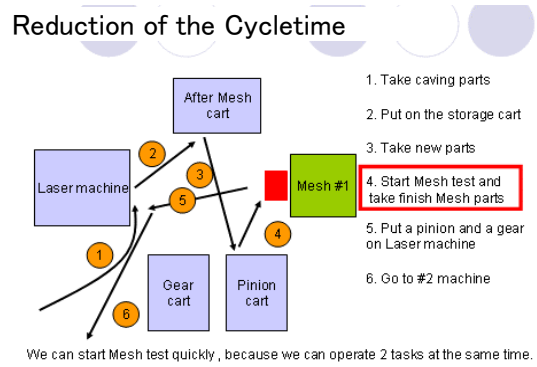
研修内容

単に仕事をしに行ったのではなく，学生の目から見た，何かの改善点を提案，実行，評価をこのインターンシップの目標に挙げていました．私はギアのはめ合いの試験工程で働いたのですが，ラインが立ち上がってから約2年しか経っておらず，稼働率が目標よりも20%ほど下回っているという状況でした.先ずは，ラインサイドで実際に仕事を行い，その中で従業員とコミュニケーションを取り，ラインの配置や仕事上での問題点を聞きました．そしてラインサイドを観察し問題点を探しました．そうした結果，ギアの加工部分での技術的な問題と，ラインの従業員の動きに関する問題を発見し，改善策をアメリカ人のエンジニアのパートナーと考えました．

行った提案と改善

ギア加工の技術的な問題は，様々な要因が複雑に絡み合っていて，派遣期間が一ヶ月ということもあり，明確な改善策を示すことが出来なかったので，ラインのスケジューリングに関する問題について，焦点を当てました．私の担当したエリアはヒューマンオペレーションの依存度が高く，簡単なモデル化が出来なかったので，各従業員の日別のデータを平均化することにより，シミュレーションモデルを立てました．そして一日中の観察を通して気づいた無駄を改善するために，オペレーションの動線の改善や，資材の配置などを，機械のダウンタイムを最小にすることを目的とした改善策を提案し，理論的にいくらの改善が見込めるかを試算し，提案しました．その案を従業員に「目的と手法」を教えて協力を要請しました．しかし，文化の違いか，初めは「今まで通りでいいではないか」や「新しいことをする必要があるのか」などの意識の差に苦労しました．しかし，普段のコミュニケーションから良い関係を築き，改善が必要な理由をしっかりと伝え，協力を得ることが出来ました．そして，結果的に私の担当エリアの稼動率を4.3%改善することができました．今後本格的な導入に向けて検討していると帰国後に連絡をもらえる程の成果を残すことができました．

今回の海外派遣で得たもの

今回，初めて海外の企業で働いてより一層の英語力の必要さを感じました．座学も大切ですが，英語も生産現場も生で触れてこそ，初めて実感できるものだと思います．英語を例に挙げると，私たちの日常の会話で用いている日本語の文法が必ずしも正しいと言えないとの同じで，独特の言い回しや文法的には正解でも，実際には使わない表現などです．それを現地の人に教えてもらうことができました．

このプログラムを通じて，英語能力はもちろんのこと，コミュニケーション能力や自分で問題を見つける力など様々なものを身につけることができました．日本にもそして海外にも新しい友人ができ，今まで以上に世界が広がりました．